

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	造園学概論				授業形態	講義			
科目コード	231300	単位数	2単位	配当学年		実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹、岡島 直方、林 典生、関西 剛康、牧田 直子							ICT活用	○
授業概要	<p>造園学に関する基本的な知識や技術を習得する。造園計画や施工等にかかわる技術者が最初に目指す資格である造園施工管理技士の試験内容を中心に概説する。造園学分野で今後学習する科目群に関連して、具体的な事例を提示しながら授業を展開する。造園学の意義、造園学の歴史と様式、土壌と肥料、植栽、造園材料、造園施工、公園、土木関連工事、建築関連工事、設計・施工、関連法規など、基本的な内容を取り扱う。詳細な授業の進め方については、授業の初回の「ガイダンス」において説明する。</p> <p>複数の実務担当教員がその実務経験を活かして、実際の造園計画、設計の業務や施工の現場での経験、事例を写真等を用いて示しながら、判り易く造園学の全体像を示す。</p>								
関連する科目	<p>今後のほとんどの造園学分野関連の授業にかかわる。例えば、測量学については、「測量学」「測量学実習」、庭園関係は「庭園学」、植物関係は「樹木学」「造園ガーデン材料論」などが関連する。</p>								
授業の方法と進め方	<p>この科目は教員によるオムニバス形式で講義が行われる。造園施工管理技術者の資格試験用の学習テキストを使いながら、担当する各教員が順番に講義を行う。講義の終了時に小テストなどがあり、それぞれの回の授業内容が理解されているかどうか確認する。最後に模擬試験を行い、授業全体にかかわる理解度を確認する。特別講義では、造園の実務家を招聘し、アクティブラーニング型のグループに分かれてのワークショップを開催する。</p>								
授業計画【第1回】	<p>造園学とは ガイダンス 授業で使用するテキスト、授業の進め方、全体像を提示する。</p>								
授業計画【第2回】	<p>造園の対象を考える キャンパスおよび周辺地域をめぐり造園の対象範囲を考える。</p>								
授業計画【第3回】	<p>1章：造園学の対象と方法 造園学の対象を考える。</p>								
授業計画【第4回】	<p>2章：造園の歴史 日本庭園、東洋庭園、西洋庭園、公共造園の歴史を学ぶ。</p>								
授業計画【第5回】	<p>3章：都市・農村・国土計画 都市計画、農村計画、国土計画との関係を学ぶ。</p>								
授業計画【第6回】	<p>4章：公園緑地計画 公園緑地の構成、計画、施設計画について学ぶ。</p>								
授業計画【第7回】	<p>5章：風景・景観計画 風景計画、都市の景観計画について学ぶ。</p>								
授業計画【第8回】	<p>6章：生態系の計画 生態系の計画や環境影響評価などについて学ぶ。</p>								
授業計画【第9回】	<p>7章：緑化・植栽計画 造園植物、植栽基盤、植栽管理について学ぶ。</p>								
授業計画【第10回】	<p>8章：造園設計・施工 造園計画・設計、造園施工と施工管理について学ぶ。</p>								
授業計画【第11回】	<p>9章：造園管理・運営 造園に関する様々な管理について学ぶ。</p>								

授業計画【第12回】	特別講義 造園実務者の話を聞く。
授業計画【第13回】	10章：造園学の展望 拡大する造園の領域やこれからの造園について学ぶ。
授業計画【第14回】	特別講義、グループワークショップなど 実社会で活躍している人たちとのワークショップを通じて造園の実務の実情や課題を学ぶ。
授業計画【第15回】	総括 模擬試験、レポートなど 学んだ内容を再確認しレポートとしてまとめる。
授業の到達目標	造園施工管理技士2級試験の合格レベルを目指す。【専門分野の知識・理解】【専門分野のスキル】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学習【予習】	テキスト及び第1回目の授業で示す参考図書など造園学に関する資料を授業前に読んでおくこと。また、造園学の分野がどのようなものであるかを理解するため、授業中に紹介する身近な造園空間を訪問したり、全国的著名な庭園や公園緑地に関わる資料や図版等を見ておくこと。(約1時間)
授業時間外の学習【復習】	テキスト及び第1回目の授業で示す参考図書など造園学に関する資料については、授業後にさらに理解を深めるために再度精読すること。各授業の最後に行われる小テストで回答できなかった内容については見直しておくこと。(約1時間)
課題に対するフィードバック	各授業のおわりに実施される小テストが返却される。
評価方法・基準	小テストとレポートで100%評価するが、この内容が合格点に達していないと試験を実施することがある。
テキスト	「造園学概論 亀山章監修 朝倉書店 2021年発行」を使用する。各自が生協等で購入すること。毎授業に必ず持参すること。
参考書	
備考	